

平成29年 第82回多可町議会定例会 一般質問

(1日目)12月20日(水) 午前9時30分から

質問順	質問議員	質問事項	答弁を求める者
1	大山由郎	高齢者の生活を応援せよ	町長
2	笹倉政芳	町長の所信表明を問う	町長
3	門脇教蔵	新町政公約実現について	町長
4	山口邦政	「子育てするなら多可町」の具体的取り組みは	町長
		自然を前面に打ち出した町の魅力づくりを	町長
5	橋尾哲夫	「子育てするなら多可町で」新町長の所信表明とは	町長
		各単老クラブに出ている補助金等の継続と多可老連に部屋の貸与について	町長
		忠臣蔵サミット加入はいつか	町長
6	藤本一昭	毎日給食サービスの本年度4月からの料金改定の経過と利用状況	町長
		幼児、児童、生徒のインフルエンザ予防ワクチン接種の公費による費用負担を求める	町長
		八千代区内の休日及び夜間の医療機関の医療体制(ICT情報通信技術)の充実を求める	町長
7	酒井洋子	私たちが誇りを持てる新庁舎を目指して	町長
		未来を担う子どもたちに快適な学びの環境を	町長・教育長
		暮らしに自分らしさをもたらす自由な移動手段を	町長

(2日目)12月21日(木) 午前9時30分から

質問順	質問議員	質問事項	答弁を求める者
8	廣畑幸子	道路標識などについて	町長
		バイパスの検証について	町長
9	市位裕文	八千代仮庁舎 旧北小学校の跡地活用のその後の進展について	町長
10	日原茂樹	減反政策廃止後の多可町農業の取り組み	町長
		発達障害支援センターを開設せよ	町長

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様

多可町議会議員 大山由郎



受 領 日	番号
平成 29 年 12 月 / 日	/
午前・午後 8 時 30 分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 高齢者の生活を応援せよ	町長
別紙にて	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

我が国は、想定外の速さで高齢化が進展し、世界最高水準の高齢化率になっている。多可町の人口は年々減少し、また、高齢化率はすでに30%を超えており、全国平均より7ポイント以上高くなっている。

今後、高齢者が笑顔で暮らすためには、様々な不安を取り除かなければならない。

そこで、特に最近身近な高齢者の間で不安視されている「買い物難民」「ゴミだし難民」等に関係する以下2点について、問うものである。

①多可町では、高齢者等の足の確保のために「買い物難民」を出さないために、福祉タクシー券交付事業、コミュニティーバス事業、また、社協による買い物ツアー事業等が実施され、高齢者等をサポートしている。「買い物難民」とは、交通網の弱体化と共に、食料品等の日常の買い物が困難な状況に置かれている人々、「交通弱者」ともいうが、「交通弱者」にとって多可町の体制は万全ではない。

「多可町地域公共交通網形成計画」策定のため、6月28日、平成29年度第1回「多可町地域公共交通活性化協議会」が開催されているが、出席者の意見は集約されているか、また、アンケート調査中とのことだが、その結果は公表すべきだ。この計画は平成29・30年度で策定とされているように、結果が出るのはまだ先の事だ、町長は現在行われている事業をいつまで続けるのか、デマンド型乗合タクシー（目的地に直行する通常のタクシーとは異なり、ワゴン車などで他の人と乗り合いながらそれぞれの目的地まで送迎する車）などの移行等、の考えはあるのか見解を伺いたい。


②核家族化が進展する中、自分でゴミだしが出来ない人が増加している。

先ほどの「買い物難民」については、依然より各地で問題になっているが、近年「ゴミ出し難民」と言う問題が浮き彫りになってきた。「ゴミだし難民」とは、高齢に伴う身体能力の低下や病気等によって、ゴミを出すことが困難な人の事だが、以前、新聞の投稿欄に、「高齢の女性は足が不自由で特に、雨の日のゴミ出しは大変だ。傘をさして重い袋を持つ姿を見かねた中学生が、手伝い始めた。お礼に小遣いを挙げると言う「それがほしくて手伝っているのではない」と言う心温まるはなしが載っていたが、高齢者のゴミだしはいつもつらい、最近の新聞の投稿欄には、高齢者のゴミだし時の悩みの投稿が目立つ。

特にこれから独り暮らしの高齢者は増えてくるが、福祉サービスの一環として、多可町も検討する余地はあると思うが、町長の見解はどうか。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様
 多可町議会議員 笹倉政芳 

受 領 日	番号
平成 29年 12月 / 日	2
午前・午後 9時 00分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 町長の所信表明を問う	町長
* 「民でできるものは民へ」の具体案は * 企業誘致と地域産業の育成の方向性は * 「子育てするなら多可町で」の環境の整備は * 職員は黒子に徹するべきの真意は	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

さて、吉田町長は長年行政にかかわってこられた町長ですので、多可町の財政をはじめ様々な分野においても大変厳しい状況にあることは一番わかっておられると思います。何とかしてこの多可町を活性化したいと、強い信念と覚悟をもって立ち上がられたと思い、大いに期待するところであります。そこで早速ですが、今後待ったなしの財政健全化・人材育成・地域創生に向けてどう取り組まれていくのか考えをお聞かせいただきたいと思います。

まず、町長の公約に「未来への約束」を掲げ「堅実な行政への変革、そして子育てするなら多可町」と訴えられました。その主要政策として行政システムの効率化の中に民間活力を利用した、行政サービスの産業化「民で出来るものは民へ」とありますが、指定管理施設の見直し等を踏まえ現段階での具体的な案があるのか答弁を求めます。

また、地域産業の育成と雇用確保という中では積極的な企業誘致と事業承継を推進し多可町の事業所を減らさないとありますが、多可町には工業団地の整備不足と交通インフラの遅れの課題、事業承継も経営は黒字でも後継者がなく廃業せざるを得ない事業所も出てきており大きな岐路に立っているのが現状です。どんな形で克服して行こうと考えておられるのか答弁を求めます。

次に、少子化対策と子育て環境の整備ということで、乳幼児の母親支援に予算を優先確保し、「子育てするなら多可町」を目指すと思いますが、現状多可町も近隣市町に劣らない施策を展開しています。今ある支援に何を加えた展開を思い描いておられるのか答弁を求めます。

当時理事であった吉田町長は、役場を退職されるあいさつの中で生涯学習センターの建設を議会が凍結したことに大きな疑問を持っておられましたが、当時議会としては新庁舎建設を最優先に考えての判断でありました。しかし今後、合併特例債の期限が平成 32 年と迫ってきていることを踏まえ、有効な活用を考え実行していかなければなりません。生涯学習センター建設をどんな形で進められるのか、また、24 時間体制の消防出張所は加美区、八千代区は平成 30 年度に整備されますが中区の出張所に関してはまだ場所も決まっていない状況にあります。どのように考えておられるか答弁を求めます。

それとは別に、商工会も会館の老朽化や駐車場と進入路の不便などを理由に移転を考えておられます。これらの課題に対しても早急に連携を取り対応策を考えていただきたいと思います。

最後に、町長は役場の職員は黒子に徹するべきだといわれていますがその真意はどこにあるのか答弁を求めます。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議員 清水俊博 様

多可町議会議員 門脇教蔵



受領日	番号
平成29年12月1日	3
午前・ 午後 5時00分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 新町政公約実現について	町長
別紙のとおり	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

吉田町長は11月27日に就任されました。

戸田町政12年の長期にわたる町政後の新たなトップリーダーとして多可町のかじ取りに期待するとともに、すべての町民が吉田町長を選んで良かったと思える、活力あふれる町づくりに、スピード感をもって取り組まれることに期待をいたしております。

新町長は「継承そして未来への変革を」キャッチフレーズに掲げ、過去の豊富な民間経験と行政経験を即戦力で実行するとことを訴え、多くの町民が選択されたものとする。

公約に掲げられた予算は今後準備が整い次第、議会に示されると思うが、公約で示されている2つの公約について、現段階で考えておられる範囲で以下の項目について伺う。

<新町政公約実現について>

1 戸田町長は合併当時から多可町は1つとと言われていた。合併後12年が経過した。吉田町長は、多可町は1つになったと実感されているか。

2 「変革」堅実な行政への変革とは。

3 子育てするなら多可町と「未来への約束」とは。

4 わたしから提案があるが、今回町長選に4名が立候補され、果敢に町長選に挑戦され、残念ながら当選に至らなかったが、いずれの候補者も町をいかに盛り立て再生させるのかを目標に立起したもので、それぞれの公約等については価値あるものが多いと考える。この際、戦われた候補者が選挙戦をきっかけとして、町長が主導し、意見交換するなどの方法を考えられ、今後の町づくりに生かされてはと考えるがいかがか。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様
 多可町議会議員 山口邦政



受領日	番号
平成29年12月4日 午前・午後 9時00分	4

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 「子育てするなら多可町」の具体的取り組みは	町長
① 多可町の子育て支援策についての現状を分析ください。 ② 吉田町長の子育て支援の方針・具体策は、アピールポイントは。 ③ 目標設定が必要と思うが、10年先の目標を何処に・何に定め、数値をどう設定するのか。 ④ 国が進め始めている「子育て世代包括支援センター」の取り組みはどうするのか。 ⑤ 厳しい財政の中で、子育て支援を重点的に取り組むための財政措置方策は。	町長
2. 自然を前面に打ち出した町の魅力づくりを	町長
① 町内で川遊びができるスポットは何か所あるのか。 ② 町内で里山整備されているヵ所は何か所あるのか。 ③ 町内のミニ公園の設置個所は何か所か。 ④ 今後自然を前面に打ち出した、川遊びスポットの設置や里山整備、ミニ公園整備を進めて行く考えはないか。	
3.	

質 問 の 内 容

1. 「子育てするなら多可町」の具体的な取り組みは

厳しい選挙戦を勝ち抜いてこられた吉田町長の誕生に心からお祝い申し上げます。

さて、選挙戦を通じて自身のリーフレットや新聞のインタビューを通じ『「子育てするなら多可町」と言われる町を目指します。』と続けられてきました。この部分についてはかなりの思い入れがあると感じています。

子育て支援につきましたは近隣自治体と切磋琢磨しながら数々の施策が実施されてきました。子育て支援策につきましたは、多可町が新しい施策を打ち出すとすぐに近隣自治体が追随し、また逆のケースで近隣自治体が打ち出した施策を多可町が取り入れる場面もありました。まさに自治体間競争が行われているのが現状かと思えます。

子育て支援策については何に重点を置くのかを明確にしていく必要があるのではないかと考えます。

支援の方策としては、保育料等の支援、出産に関する支援、医療費等の支援、民間事業者との協働で各種割引制度での支援、住環境での支援、多子世帯の子育て支援金等の金銭での支援等色々な支援の方策があると思えます。

ある団体が「子育てしやすい街アンケート」を取った結果を発表しています。その中で子育てしやすい街に選んだ理由として、子どもが遊べる公園が多くある、平均学力が高い、住民の健康度が高い、文化的な施設が充実しているなどが挙げられていました。

財政的に厳しい中で子育て支援策を打ち出していくには、独創的な施策が必要かと思えます。そして何かを重点的に行っていく、町内外にアピールしていく必要があるかと思えます。また、長期的な計画に基づき数値目標を定めて目標達成の進行管理をしていくことも重要かと思えます。

従来の子育て支援を振り返り、今後吉田町長は具体的にどのような施策で「子育てするなら多可町」と言われる町を創っていこうと考えておられるのかお考えをお示しいただきたいと思えます。

- ① 多可町の子育て支援策についての現状を分析ください。
- ② 吉田町長の子育て支援の方針・具体策は、アピールポイントを何処に置くのか。
- ③ 目標設定が必要と思うが、10年先の目標を何処に・何に定め、数値をどう

設定するのか。

- ④ 国が進め始めている「子育て世代包括支援センター」の取組みはどうするのか。
- ⑤ 厳しい財政の中で、子育て支援を重点的に取り組むために、どのように財源捻出をしていくのか。

以上、町長の答弁を求めます。

2. 自然を前面に打ち出した町の魅力づくりを

多可町は京阪神地方から車で1時間半の距離でPRポスターでも「ちょっとベンリな田舎。多可町です」のキャッチフレーズとしてアピールしています。

自然を活用した取り組みも数多く実施され、最近では健康保養地事業でのウェルネスウォーキングが始まり好評を得ております。

これらの事業も大事ですが、身構えて自然に入っていくのではなく、もっと身近に自然を感じてもらう手法を取り入れていく必要もあるのではないのでしょうか。

昔あって今ないもの、今必要とされているものがいくつかあります。

例えば川辺、里山、子どもが遊べる簡易公園などがあげられます。

川辺ですが「道の駅杉原紙の里」前の川辺にはシーズンの土日になると多くの子供連れで賑わっています。昔は各集落の中に一か所以上このように川遊びができるスポットが存在していました。

里山につきましても集落内に数か所は簡単に行ける里山が存在していました。

簡易な遊具がそろった公園も各集落内にありましたが、遊具管理の問題があり撤去された集落がほとんどとなり、子どもたちの声も聞こえなくなっています。

先日もある子育て世代のお母さんからこんな声を聞きました。「子どもを遊ばせたいが遊ばせる場所がない。私たちが子どもの頃には集落の運動場にブランコとか滑り台があったのに。子どもを遊ばせる場所がほしい」

1点目子育て支援策の1つとしても、このように子どもたちが遊べる場所の確保も重要な支援ポイントではないかと考えます。

今一度こうした自然の中での川遊びスポット、里山、ミニ公園の復活を考え、自然を前面に打ち出した町の魅力づくりが必要ではないのでしょうか。

- ① 町内で川遊びができるスポットは何か所あるのか。
- ② 町内で里山整備されているカ所は何か所あるのか。
- ③ 町内のミニ公園の設置個所は何か所か。
- ④ 今後自然を前面に打ち出した、川遊びスポットの設置や里山整備、ミニ公園整備を進めて行く考えはないか。

以上、町長の答弁を求めます。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議員 清水俊博 様
 多可町議会議員 橋尾哲夫 夫



受領日	番号
平成29年12月6日 午前・ 午後 3時 5分	5

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 「子育てするなら多可町で」新町長の所信表明とは	町長
<p>将来を担う子供たちに大いに期待し、少子化を少しでも減らし活気ある町にするための施策であると思います。多可町の出身者が近隣市に在住し子育て等しているとの情報は多く寄せられています。子供への支援策の充実と教育の質の高さ。具体的には医療費の無料化と保育料の無料化等です。多可町も近隣市自治体以上の充実策でなければ地元自宅での子育ては無理ではないかと想定します。思いきった施策でなければ絵に書いた餅になってしまいます。新町長の施策は如何に。町長の答弁を求めます。</p>	
2. 各単老クラブに出ている補助金等の継続と多可老連に部屋の貸与について	町長
<p>本年当初には各単老クラブに高齢者の生きがいと健康づくり事業として45,000円が削られています。9月議会で平成29年度補正予算として復活しました。29年度は移行期間の措置として出しますが、30年度は出しません。との回答ですが、地方交付税の26700万円もれが30年度に入れば総計279万円の約1%程度で財政上何の問題もありません。継続することが高齢者の健康増進につながります。収支決算書は提出する必要がありますが、領収書は出す必要はないです。各市自治体では領収書を提出されていません。</p>	
3. 忠臣蔵サミット加入はいつか	町長
<p>本年11月10日、加西市で忠臣蔵サミットが開催されました。多可町八千代区大和地区は赤穂藩の飛び地として忠臣蔵ゆかりの里です。9月議会での私の一般質問の回答は積極的に参加したいとの回答でした。前戸田町長は加西市でのサミット会場に行かれたとの情報は入っています。平成30年度から参加されるのですか。町長の答弁を求めます。</p>	

質 問 の 内 容

- 2 多可町老人クラブ連合会に対して町の空き部屋を無償貸与すべきです。各市自治体は部屋の貸与をしています。近隣市と同じ条件での貸与をすべきです。社会福祉協議会の中にも多可老連会長の椅子もない状態では名前だけの会長です。高齢化に対しては老人クラブの力をお借りして高齢者の生きがい健康づくりの充実策を図っていくことが町の責務であります。

「敬老の心今も尚高らかに」の精神が生かされていますか。

加西市の老人クラブ連合会は福祉センター内の 1 室を無償使用しています。部屋の広さは 1 6 畳の広さがあります。事務局員 1 名午前中勤務されています。町長の答弁を求めます。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様
 多可町議会 藤本 一 昭



受 領 日	番号
平成 29 年 12 月 8 日 午前・午後 0 時 20 分	6

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
<p>1. 毎日給食サービスの本年度4月からの料金改定の経過と利用状況</p> <p>在宅サービスとして利用されていますが、平成29年4月から料金が改定されました。昨年までの料金と比較して2倍に値上げされました。それに伴い利用を断念した世帯があります。その理由は料金が2倍になって毎日給食を受けるだけの資金がないためでありました。</p> <p>料金の改定した理由、変更の手続き、審議した部署と経過そして、町民への周知をしたか、そして、値上げになって、その後どのように利用されているかを町長に答弁を求める。</p>	町長
<p>2. 幼児、児童、生徒のインフルエンザ予防ワクチン接種の公費による費用負担を求める。</p> <p>多可町では、高齢者のインフルエンザ予防接種の費用は、公費負担となっておりますが、幼児を含む生徒児童へのインフルエンザ予防接種の公費負担がないため、昨今の小学校中学校のインフルエンザによる学級閉鎖が毎年多発しています。</p> <p>この際、幼児、児童、生徒の任意のインフルエンザ予防接種の費用負担を公費にすることを求めます。町長の決断を求めます。</p>	町長
<p>3. 八千代区内の休日及び夜間の医療機関の医療体制（ICT情報通信技術）の充実を求める。</p> <p>八千代区の休日及び夜間の医療機関の体制が未整備であります。八千代区で暮らす高齢者の多くが、かかりつけ医としているのが、八千代診療所と伊藤医院であります。高齢者の容態が、急変した際に、他の医療機関に救急搬送されているのが現状であります。そこで、適切な医療の継続のために多可日本赤十字病院を中心とする、地域包括支援システムを利用して、かかりつけ医の不在時に ICT（情報通信技術等）を利用して円滑な情報提供を確立していくべきであると考えます。</p>	町長

質 問 の 内 容

1、在宅サービスとして利用している方は、おおむね65歳以上の一人暮らし老人。高齢者世帯で調理が困難な高齢者に対して、定期的に訪問して、栄養のバランスのある食事を提供して、同時に安否の確認を目的に実施していただいております。

そんな中平成29年4月から料金が改定されました。昨年までの料金と比較して2倍に値上げされました。全食（ごはん、おかず）で300円から500円、副食（おかず）は、200円から400円それぞれ値上げになりました。それに伴い利用者が、利用を断念した世帯があります。そのうちの一人の方は、その理由料金が2倍になって毎日給食を24日利用していましたので毎月、約7200円の支払いをしていましたが、約12000円になるので利用を断念しました。年金暮らしの一人暮らし世帯で毎月約5000円の出費は大変厳しいものであります。

町当局が、この料金の改定を実施した理由と料金変更のために実施した調査内容、内部での料金改定に対しての手続き及び経過及び審議した部署と審査経過並びに、町民への周知をどのように実施したか、そして、値上げになって、その後どのような利用状況になっているかを町長に答弁を求めます。

その方は、4月から、介護保険の利用に変更しております。

それによって、ホームヘルパーさんに調理を依頼しております。食材は、ご近所のかたにお買い物を依頼されて食材費が増加しております。その上、介護料金は、約5000円を支払っています。つまり、多可町は、毎日給食の7000円の費用を抑制するために、毎月介護保険として、金45000円の介護保険金を拠出しています。この現状をどのように受け止めますか、答弁を求めます。

2多可町では、高齢者のインフルエンザ予防接種の費用は、公費負担となっておりますが、幼児を含む生徒児童へのインフルエンザ予防接種の公費負担がないため、昨今の小学校中学校のインフルエンザによる学級閉鎖が毎年多発しています。

その要因は、多可町の場合複数の世代が同居しています。それにより家族の子供が、インフルエンザを発病すると、兄弟に伝染し、同居の高齢者に伝染しそして両親にと順番に発症しているのが現状であります。高齢者のインフルエンザ予防接種によって、高齢者は発症しにくいことにはなりますが、家庭内では、予防には限界あります。若年者のインフルエンザ予防によって、小中学校のインフルエンザによる学級閉鎖が減少するようにしていくべきであると考えます。

この際、幼児、児童、生徒の任意のインフルエンザ予防接種の費用負担を公費にすることを求めます。どうか町長の決断をもとめます。

3, 八千代区の休日及び夜間の医療機関の体制が未整備であります。八千代区で暮らす高齢者の多くが、かかりつけ医としているのが、八千代診療所と伊藤医院であります。高齢者の容態が、急変した際に、他の医療機関に救急搬送されているのが現状であります。

そこで、適切な医療の継続のために多可日本赤十字病院を中心とする、地域包括支援システムを利用して、かかりつけ医の不在時（看取りを含む）に ICT（情報通信技術）等を利用して円滑な情報提供を確立していくべきであると考えます。

例えば、既往歴、治療経過、診察内容を ITC のネットワークを確立して、情報の共有化を図り不要な検査をせずに適確な治療に対処でき、活用すべきであります。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様
 多可町議会議員 酒井洋子



受 領 日	番号
平成 29 年 / 12 月 8 日 午前・ <u>午後</u> 4 時 20 分	7

質 問 の 項 目 及 び 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
1. 私たちが誇りを持てる新庁舎を目指して	町長
<ul style="list-style-type: none"> ・多可町らしい庁舎にするため、地元産の材料を使うことは ・多可町らしい庁舎にするため、町内事業者への分離発注は ・多可町のお財布事情を考慮して、今あるものを使う 	
2. 未来を担う子どもたちに快適な学びの環境を	教育長 町長
<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化が進み記録を塗り替える昨今、まちのたから子どもたちの学びの場にエアコン設置は急務 	
3. 暮らしに自分らしさをもたらす自由な移動手段を	町長
<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援としての移動手段について ・のぎくバス循環路線をもっと使いやすい交通手段に替える 	

質 問 の 内 容

新庁舎については、大型事業でもありますし住民の関心が特に高いものとなっています。

新しい多可町役場がより多可町らしく、私たち住民が誇りを持てるような庁舎であることが望ましいと考えます。今回の補正ではカーテンブラインドが上がっていましたが、町長の所信表明にもあったように、地域産業を元気にするために、地元多可町産の木材を使ったブラインドや播州織のカーテンにするようなお考えはありますか？材料や製品とは別に取り付けを地元業者に依頼するような発注を分離するお考えはありでしょうか？

西松建設に依頼する理由が、他よりも安かったからということは十分理解できますが、せつかくの大きな事業を地域の活性化につなげる方向で考えることが、真に活きたお金の使い方と言えるのではないのでしょうか。

一方で、何かにつけて厳しいと言われる財政状況です、できる限り今あるものを活用して儉約の精神を示すことが、予算の優先順位について、つまりお金の使い方について、多可町の「筋」を通すことにつながると考えます。

この点について、町長の考えをお聞きさせていただきます。

各学校の全教室へのエアコン設置について

今年の夏は大変暑うございました、新聞報道によると、特に今年の夏は体育祭の練習中などに熱中症により病院に搬送された中学生が多数と聞きました。気象庁の発表によれば、2017年夏（6月～8月）の日本の平均気温は、1981年～2010年平均基準における偏差が+0.58℃とのことで、日本の夏の平均気温は上昇傾向が続いています。これを受ける形で、全国の自治体では急ピッチで各教室にエアコン設置が進んでいます。西脇市で平成25年度に全教室へのエアコン設置がなされ、丹波市では来年度一気に整備されるとのことです。私たちの暮らしを考えた時、家の中、職場、移動中の車の中にも当たり前前にエアコンが整備されているにもかかわらず、学校にだけないのはなぜだろうと疑問にすら感じます。子どもたちの体を鍛えるという側面もあるのかもしれませんが、昨今の暑さが異常であることはみなさんもお感じの通りです。さる9月議会では、教育長もエアコン設置は必要との見解を示されておられました。未来を担う子どもたちの健康や、集中して学習する環境を整備することはもはや待ったなしではないのでしょうか？

まず教育長に改めてその見解を伺います。

同時に町長、そのための予算措置が今季定例会に上程されている補正予算には

見当たらないようですが、いかがお考えなのか、ぜひ明確な答弁をお願いいたします。

住民の外出支援、移動手段の確保について

選挙を前に多くのみなさんにお話しを伺いました、その中で高齢になり車の運転が億劫になったけれど、バスは使いにくい、もっとタクシーが利用しやすいものになれば助かるのに・・・と言われることが多くありました。かつて先輩議員がその声に応えるためにワンコインタクシーを提案されています。この制度は、現在町内を循環しているコミバスに替えてタクシーを町が借り上げ、住民が1回500円（ワンコイン）で自由に利用できる制度として提案してありました。費用は3000万円あれば実施できます。議事録を読み返してみましたが、すでにコミバスに4000万円を投じていることから、この費用を充てればすぐにでも実施できると考えられます。いつ実現していただけるのか、そのタイムスケジュールを示していただけませんか。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水 俊博 様
 多可町議会議員 廣畑 幸子



受 領 日	番号
平成 29 年 12 月 / / 日	8
午前・午後 8 時 30 分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 道路標識などについて	町長
別紙参照	
2. バイパスの検証について	町長
別紙参照	
3.	

質 問 の 内 容

1, まず最初に、道路標識やカーブミラーなどの管理についてお聞きします。

道路を安全かつ円滑な利用ができるために設置してあるものには、「規制標識」や「指示標識」、「案内標識」や「警戒標識」またカーブミラーなどがあります。

主に「案内標識」「警戒標識」は道路管理者（国・県・市町村）が、「規制標識」「指示標識」は都道府県公安委員会などが設置し管理しています。また、カーブミラーは町が設置しているものが主なものです。

そのカーブミラーですが、町内には、町が設置したもの、その他のものを含め、1000本以上設置してあります。

設置後の年数は様々です。多可町になってから設置したものももちろんあります。合併前旧町時代に設置されたものも多数あります。このカーブミラーですが、強風や腐食のため倒壊した事故が近隣でもありました。

多可町ではどうだろうと思っていたのですが、今年6月に倒れる事故がありました。もし歩いている人に当たっていたら、そしてけがをしていたら、経年劣化によるものですなどと言って済ませられるものではありません。安全安心のために設置してあるものが、凶器になっては困ります。

道路標識またカーブミラーはどのような管理・点検をされているのでしょうか。現状をまた、今後の対策などをお聞かせ下さい。

2, 次にバイパスの検証についてお聞きします。

多可町にはたくさんのバイパスがあります。

合併後、曾我井バイパスができました。現在工事中の天船バイパス、そしてこれから工事にかかる豊部バイパスなど、交通の利便性や安全のために、順次工事が進められています。

バイパスは、新たに造られた道ではありますが、まっすぐの道ばかりではありません。カーブもあれば、取り付け部との関係で、平坦では無く緩いかもしれません坂道になっています。

新しい道は、ドライバーの皆さんも気をつけて運転されています。

しかし、長年運転していると、慣れからスピードを出しすぎたり、大丈夫という思い込みから安全確認の不足を生じることがあります。

国道427号の西山地内のバイパスは、平成10年に完成しました。集落内の道幅が狭いにも関わらず交通量が多かったのですが、バイパス完成で危険度がずいぶん改善されました。

しかし今月初め、通称「こはるロード」から国道へ出る交差点で事故が起きました。けがの程度はあまりひどくはなかったと聞いていますが、エアバッグが飛び出すほどの衝撃がありました。

このバイパスは、完成してから 20 年近くになります。その間に環境も変わっています。清水坂トンネルの開通で車の通行量もずいぶん増えています。安全確保のためにも検証し、「信号機」設置なども視野に入れて考えられないでしょうか。

多可町議会議長 清水俊博様

平成 29年 12月 11日	
受	午前
9時15分	
領	午後

多可町議会議員 市位裕文



質問の項目及び要旨

答弁を求める者

八千代仮庁舎 旧北小学校の跡地活用のその後の進展について

今回 吉田町長の誕生になり、本当におめでとうございます。
戸田町政の後継を訴えられ、今後も戸田前町政が訴えられたことの政策の実現を続けられると私は信じます。

私も9月議会での一般質問で、八千代北小学校の跡地活用を取り上げ、戸田前町長より大変前向きな回答が得られ満足しています。

ロバート博士のNGI構想、福祉の拠点、など前向きに検討しますと言われたことは、議事録を見てもらうとあきらかです。

吉田町長も当然引継ぎの段階での話はあったと信じています。

この件は笹倉議員の一般質問の回答の中でも「千載一遇のチャンスと捉え、多可町の夢をここに掛けてみたいとおもいます。」とまで言われ、「次の首長につなげます。」このようにしめくくっておられています。

今月9日にありました、地元の跡地活用委員会も学生さんからの発表報告もあり、夢のある報告に感心しました。そこで改めて町の言われたNGI構想の説明もさせてもらいました。もう後戻りは許されないと実感しました。地元の期待のこもった構想です。

タイムラインによりますと9月前半アンケート実施 10月作業チームを作る 予算案などの準備 議会に対する説明など 来年度4月準備室をつくる 再来年度1月より受け入れ開始 と貰いました資料には記してあります。すでに12月後半です、当然新体制に移行しましたので遅れもあろうとは思いますが、現在の進捗状況をお聞かせください。

ロバート博士は町の親善大使にもなられ、先日の播州織のイベントにも赤坂に来られて積極的動かれています。町当局が遅れることは許されません、予算計上の時期でもあるし吉田新町長の実力を信じています。

担当部局ならびに担当者も教えてください、多可町最大の空き家対策の司令塔になってもらい、頑張ってもらいます。

一般質問通告書

【第82回定例会】

多可町議会議長 清水 俊博 様

多可町議会議員 日原 茂樹



受 領 日	番号
平成29年12月11日	10
午前・午後11時48分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 減反政策廃止後の多可町農業の取り組み	町長
2. 発達障害支援センターを開設せよ	町長

質 問 の 内 容

1. 減反政策廃止後の多可町農業の取り組み

国は 1960 年代後半から米の消費量減少による「米余り」が、米の販売価格を下げ農家の経営を圧迫すると判断して、70 年代から生産量の上限目標を決め、生産量を減らした農家に補助金を支払う「減反政策」を続けてきました。しかし、2018 年産からこの制度が廃止されます。

政府は農業を成長産業と位置づけ、補助金に依存しない自立した農業を目指すとしています。以前から、減反は一律に生産量を抑え込む点で、農家の競争意欲を低下させ経営の自由度や効率的な生産を妨げているという指摘もありました。減反政策を廃止すれば、農家はより経営を重視し、生産する作物を選択するようになるとの狙いがあるようです。

国は、2018 年産から都道府県に対する米の生産数量目標の設定や配分をやめ、全国ベースの米の生産と需要の見通しの策定、きめ細やかな需給・価格情報、販売進捗・在庫情報を提供するとしています。

今後は各都道府県が地元の米販売動向を予測しながら、全体の量や地域別の細やかな生産量を判断するといわれています。しかし、各県によって県全体の生産量だけを決めるところや市町村単位、生産者単位まで決めるところなどバラバラです。

国の米政策の見直しによる影響については、主食用米の生産数量目標の配分がなくなること、米の直接支払交付金（個別所得補償 7500 円/10 アール）が廃止されることから、全国的に主食用米の作付面積が増大することが考えられます。そうすると主食用米が過剰に供給されることになり、需要と供給のバランスが崩れて米価が低下し、農業収入の減少が農業者や営農組合等の営農計画へ多大な影響を及ぼすものと考えられます。

現在の多可町農業を取り巻く環境も、輸入農産物の増加による価格低迷や産地間競争の激化など、非常に厳しい状況が続いています。

農業は、多可町にとって重要な産業であり、その中でも水稲は大きなウェイトを占めています。特に、山田錦は重要な基幹作物です。米を中心に、農家が将来にわたって安心して農業に取り組めるような対策が、これまで以上に必要とされています。

減反政策廃止後の農業対策を、農業経営の安定化に対する政策をどのように展開していくのか、町長の所見を伺います。

2. 発達障害支援センターを開設せよ

発達障害とは、先天的なさまざまな要因によって主に乳幼児から幼児期にかけてその特性があらわれはじめ、自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥・多動性障害などの総称で、文科省の調査によると、通常学級に発達障害の可能性のある児童生徒が6.5%いると推計されています。

また専門家からは、グレーゾーンも必然的に存在するので約8%が発達障害、また現場の先生からは20%くらいと聞かされたこともあります。さらに学校教育法の改正によって、2007年度から特別支援教育に移行され、発達障害も対象に加わるということが明確にされました。

しかし、困難を抱えていると学校現場で判断された児童生徒がどのような支援を受けているのかといった調査では、発達障害のある児童生徒のうち、特別な教育支援が必要と判断されたのは18.4%と5人に1人にも満たず、しかも発達障害の可能性のある児童生徒のうち、38.6%がいずれの支援も受けていないとの結果が報告されています。

また、個別の教育支援計画や個別の指導計画が作成されていたり、特別支援教育支援員の対象となっている割合も、発達障害の可能性のある児童生徒の10%以下ということで、指導の困難さや支援の必要性は感じながらも、他の児童生徒の対応や校務に追われ、十分な対応をしたくてもできていない実態が明らかになっています。

一方で、発達障害は早期に発見し早期に療育することで適応を促すことができると言われています。また、不適応から起こる引きこもりなどの二次障害を克服させるためにも専門家のもとで個々の状態にあったソーシャルスキルトレーニング等を行い、社会でよりよく生きるための力を付けることが重要になってきます。

多可町においても、発達障害の可能性も含め特別な配慮が必要な幼児、園児、児童生徒を成長段階において健康課やこども園、キッズランド、子ども未来課、学校教育課や小中学校、特別支援学校などが、それぞれ必要に応じて相互に連携し、情報交換を行いながら継続した支援の確保に努めてはいるものの、それぞれの部署のマンパワーに頼るところが多く、必ずしも一貫した相談支援体制が構築されている状況ではないと思われます。

加東市では今年5月に幼児期から就労までを見通した支援体制で要支援者の自立を目指す「発達サポートセンターはぴあ」を開所されています。健康福祉関連の市長部局と教育委員会にまたがっていた業務を統合し、窓口を一本化したワンストップ型のサポートセンターです。

主な機能は、来所相談や発達検査、スタッフが学校園に出向いての巡回相談・情報共有や遊びを通して心身の発達を促す療育事業、保健・福祉・学校など関係機関の従事者や市民への研修会など幅広い項目に保健師や教育相談支援員ら6人で対応しています。

発達障害児への支援の構想をもち、発達支援センター開設など、着実に取り組みを進める自治体が増えている中、多可町でも加東市と同様のワンストップ型の発達障害児への総合的な相談支援体制が必要と考えます。町長も「子育てするなら多可町といわれるまち」を約束されています。発達支援センター開設に向けた町長の所見を伺います。